



国立研究開発法人
水産研究・教育機構

※本件は、宮古記者クラブおよび岩手県政記者クラブに配信しております

プレスリリース

平成 28 年 7 月 12 日

国立研究開発法人 水産研究・教育機構

宮古湾にホシガレイ稚魚 3 万尾を放流

～震災の影響から回復した海で大きく育て！～

東北区水産研究所宮古庁舎（岩手県宮古市崎山）にて種苗生産したホシガレイの稚魚 30,000 尾を、7 月 19 日に岩手県宮古湾へ放流することになりましたのでお知らせします。

ホシガレイは“幻の魚”といわれるほど全国的に資源が減少しています。その原因は、ホシガレイの成育場として重要な内湾の藻場・干潟域が埋め立て等により減少したためと考えられています。さらに太平洋北部海域の藻場・干潟域は、震災の津波や地盤沈下により大きな被害を受けており、ホシガレイ資源の更なる減少が懸念されています。

今回の放流試験では、宮古湾奥部の藻場・干潟域に昨年度と同数である 30,000 尾のホシガレイ稚魚を放流します。そして、放流後のホシガレイの成長・生残・食性、放流が生態系に与える影響などを複数年にわたって調査することにより、震災後回復過程にある藻場・干潟域の生物生産力を明らかにします。これまでの調査で、宮古湾における適正なホシガレイ放流尾数が明らかになりつつあり、これらの結果は、震災後の太平洋北部海域における沿岸漁業復興の目玉として注目されているホシガレイ増殖の事業化に向けて、とても重要な知見となります。

本件照会先：

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 東北区水産研究所

主任研究員 清水 大輔 TEL:0193-63-8121

沿岸漁業資源研究センター長 神山 孝史 TEL:0193-63-8121

業務推進課長 山田 秀秋 TEL:022-365-9924

参考資料

《研究内容》

ホシガレイは、全長 65cm、体重 4kg まで成長するカレイ科魚類の一種です。日本では“幻の魚”といわれるほど資源水準が低下しており、現在では三陸沿岸、瀬戸内海、九州西部等に僅かに分布しているに過ぎません。東北区水産研究所では、成長が速く高級魚である本種に着目し、平成元年より種苗生産技術の開発を開始し、平成 11 年より岩手県宮古湾をモデル海域として放流試験を進めてきました。放流試験の結果、放流後の移動範囲が狭いこと、小型甲殻類を主に摂餌し、初夏に放流すると秋には約 20cm に、2 歳になると雌では 40cm に達することなどの知見が得られました。過去に行われた放流試験における回収率（放流個体数に対する漁獲個体数の割合）は最大で 15%を超えるなど、増殖対象種として高い可能性を有していることが判っていますが、放流に好適な条件には不明な点が多数残っています。

ホシガレイの稚魚は、河川水の影響を受ける閉鎖的な内湾の藻場・干潟域のみに生息することが明らかとなっており、これら成育場の減少が本種の資源減少を招いたと考えられます。さらに太平洋北部海域の藻場・干潟域は、震災の津波や地盤沈下により大きな被害を受けており、ホシガレイ資源の更なる減少が懸念されています。

今回の放流試験では、昨年度と同数である 30,000 尾のホシガレイ稚魚を放流します。そして、放流後のホシガレイの成長・生残・食性、放流が生態系に与える影響などを複数年にわたって調査することにより、震災後回復過程にある藻場・干潟域の生物生産力を明らかにします。これまでの調査の結果、宮古湾の生物生産力に関する多くの知見が得られ、放流したホシガレイが正常に成長し生き残ることができる、適正な放流尾数が明らかになりつつあります。ホシガレイの増殖研究は、震災後の太平洋北部海域における沿岸漁業復興の目玉として注目されており、地域水産業の活性化に大きく貢献するものと期待されます。

《放流の概要》

- 1) 放流日時：7 月 19 日（火）10：30 頃，15：00 頃（2 回）

なお、午前中（10：30）の放流には、地元小学校の児童（30 名）も参加します。

- 2) 放流場所：岩手県宮古湾奥部 赤前地先 釜が沢斜路前
- 3) 放流尾数：30,000 尾
- 4) 放流サイズ：9.5cm（12/30 ふ化，202 日齢）
- 5) 標識方法：パンチング標識（図 1，2）

穴空けパンチで体表に傷を付け、その治癒痕（再生鱗）により放流魚を識別します。

- 6) その他：放流は当日の天候によって延期する場合があります。



図1 パンチング標識を装着したホシガレイ稚魚

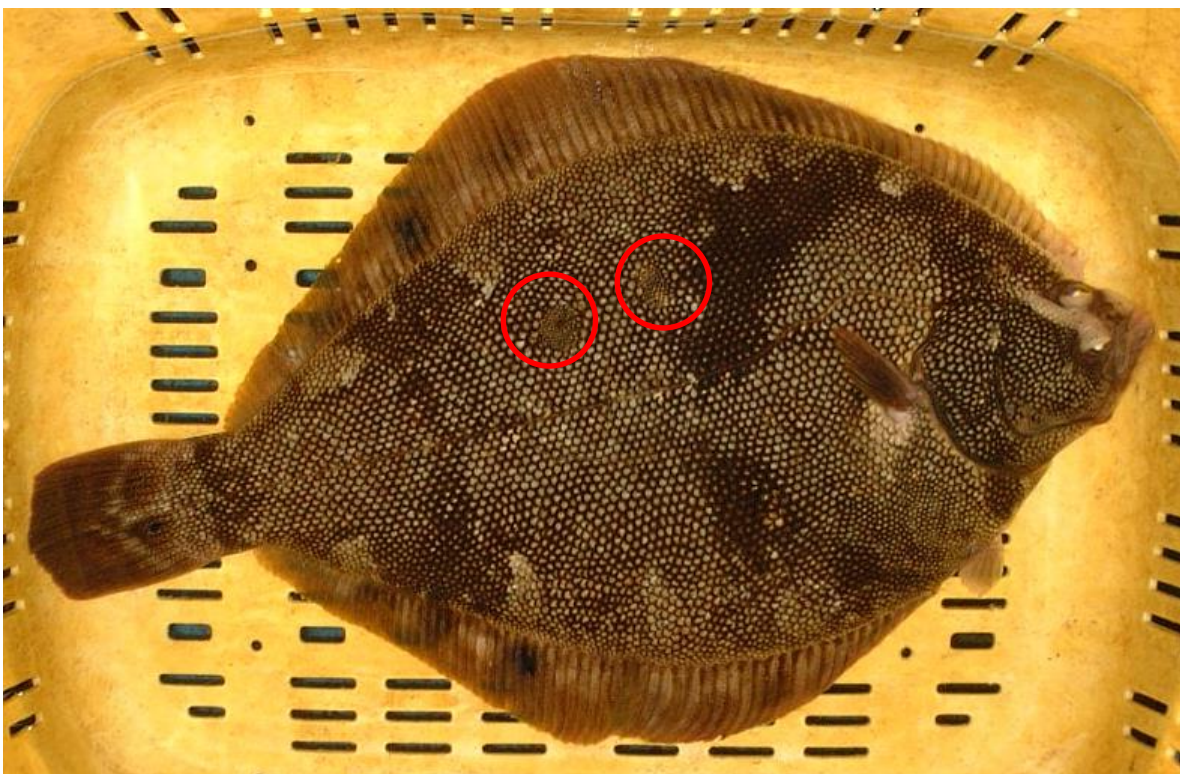


図2 放流後2年で再捕されたホシガレイ（全長約40cm）.
パンチング標識の再生鱗が確認できる